

いしかわ

まちづくり View

No.66

目次

■特集	いしかわ広告景観賞について	…1
■	あのまち、このまち“まちづくりめぐり”	
	金沢駅通り線のライトアップ事業について	…3
	小松市観光交流センター「 ^コ マ ^マ ツ ^ツ ナイン」の完成	…4
■	センターだより	…5

特集

いしかわ広告景観賞について

1 はじめに

屋外広告物は、景観を形成する重要な要素であり、無秩序に設置されると街の魅力を損ねてしまう一方、良質でデザイン性が高い広告物は訪れる人々にまちの表情として好印象を与えるものとなります。

石川県は、霊峰白山や加賀・能登の海岸など多彩な地形が織りなす自然景観をはじめ、優れた景観資源を有しています。こうした本県の誇る貴重な財産を守り育てながら後世に引き継いでいく必要があり、県では、良好な景観形成につながる優れた屋外広告物を表彰する「いしかわ広告景観賞」を実施しております。

2 事業概要

いしかわ広告景観賞は、本県が全国に先駆けて、都市景観等の向上と屋外広告物に対する県民の関心を高めることを目的として、昭和63年から実施し、本年度で36回を迎えました。

【第36回いしかわ広告景観賞の概要】

主催：いしかわ広告景観賞実行委員会

(石川県、金沢市、石川県屋外広告業協同組合)

審査：審査委員長 大場吉美金沢学院大学名誉教授

表彰：知事賞（公共部門、民間部門） 2点
金沢市長賞 1点
石川県屋外広告業協同組合理事長賞 1点
各後援団体賞 10点

3 募集及び審査会

募集は、過去3年間に石川県内に設置された屋外広告物を対象とし、令和5年4月28日から令和5年5月31日までの間に行いました。応募総数は、64作品（公共部門14件、民間部門50件）でした。審査は、2回に分けて実施し、第1次審査会は令和5年6月28日に行われ、応募数64件に対し、審査員が10作品を選定のうえ、得票の高い上位30作品程度を第2次審査会にかけることとなります。第2次審査会は、令和5年7月26日に行われ、公共部門と民間部門の各上位を知事賞として選定し、金沢市長賞、石川県屋外広告業協同組合理事長賞の主催者賞を選定した後、後援団体10賞を選定しました。

4 審査基準

審査では以下4点を審査の基準として考慮し選定

します。①デザインが優れていること。②建築物その他周辺の景観及び街並みとの調和がとれていること。③建設的で創意工夫が発揮されており、他の作品の模倣でないこと。④作成意欲に富み、他の模範とするに足りること。この4点を踏まえ、大場吉美審査委員長をはじめ、主催・後援団体の代表14名にて審査会を開催しました。

5 知事賞について

今回、受賞作品の14作品のうち、知事賞に選定された公共部門と民間部門の2点を紹介します。公共部門は、「浅野川大橋100周年記念銘板」（金沢市橋場町、東山）で、広告主は国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所です。作品は、浅野川大橋の架橋100周年を祝し、記念ロゴをあしらった銘板です。選定理由は、登録有形文化財にふさわしい鋳物製の銘板のデザインが、歴史的街並みの中で、歴史的ランドマークとして品格を重んじたものとなっており、目を引くような美しい仕上がりであったためです。続いて、民間部門は、「マルガーラボ野々市/ noto nature art lab.」（野々市市本町）で、広告主は株式会社マルガーラボです。作品は、数々の世界大会で称号を手にしてきたジェラート職人が展開するジェラートショップのサインです。選定理由は、色合いを邪魔しない建物のカラーガラスと人々を惹き付けるインパクトがある看板ロゴがうまく融合されており、建物との調和がとれているだけでなく、建築デザインと色彩計画が優れつつも世界を意識したスケールのデザインであったためです。本作品を含む全14作品が9月11日に石川県庁4階特別会議室で開催された表彰式にて、表彰されました。



▲石川県知事賞(公共部門)
浅野川大橋 100周年記念銘板



▲石川県知事賞(民間部門)
マルガーラボ野々市/ noto nature art lab.



▲表彰式



▲受賞者による作品説明(表彰式)

6 おわりに

回を重ねるごとに応募作品のデザインや創意工夫の質が高まっており、今回の審査会では周辺環境への調和に加えて、地域にふさわしい素材の使用や色彩、スケール感が評価されました。今後も引き続き、この広告景観賞を通して、景観の向上に寄与したいと考えております。来年度も、本県のイメージアップにつながる景観の創出に寄与する優れた「屋外広告物」の応募をお待ちしております。

【問合わせ先】

石川県土木部都市計画課

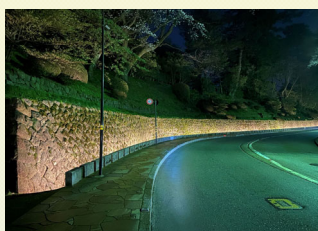
TEL:076-225-1759

E-mail:toshikei@pref.ishikawa.lg.jp

金沢駅通り線のライトアップ事業について

1 はじめに

金沢市では、平成 26 年 3 月に「金沢らしい夜間景観整備計画」を策定し、金沢らしい夜間景観のあり方、公共空間における照明整備を行う際の指標を定めました。この計画を基に、平成 30 年 3 月に「夜間景観アクションプログラム」を策定し、本プログラムに基づいて平成 30 年度から、金沢駅鼓門等のランドマークや旧城下町区域に残る石垣、歴史的建造物、橋梁等の夜間景観照明設備の整備を進めてきました。

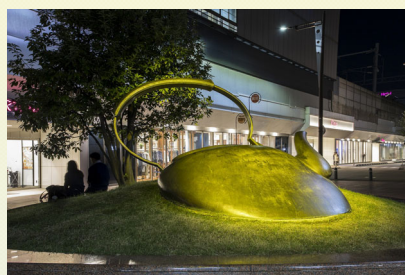


▲広坂石垣



▲長町地区

金沢市内にはパブリックアートとして彫刻作品が設置されています。この事業では、金沢駅東広場及び金沢駅通り線沿いに設置されている 5 つの彫刻作品、①「やかん体、転倒する。」、②「CORPUS MINOR #1」、③「The Sundial」、④「FUGA」、⑤「BREAKFAST」に加え、⑥せせらぎ水路、⑦武蔵地下駐車場排気塔に夜間景観照明を整備しました。これにより、これまで整備した金沢駅鼓門と北國銀行武蔵ヶ辻支店との間にあるライトアップ施設が連続的になりました。



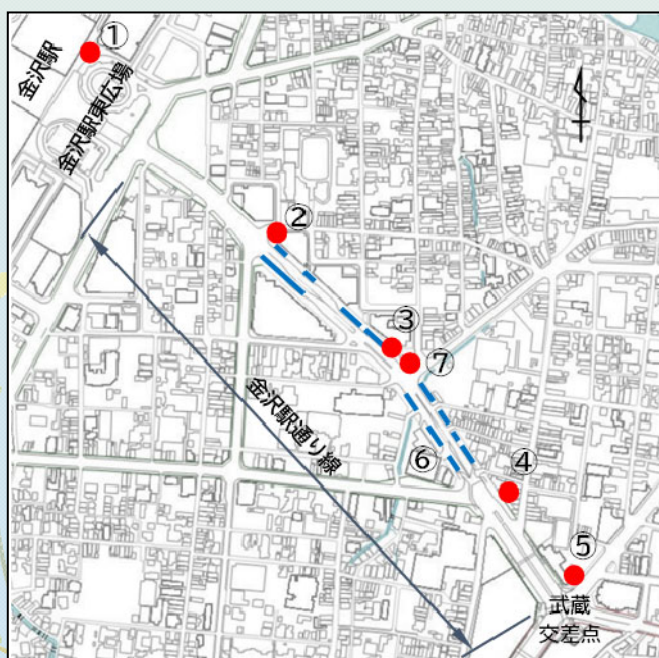
▲①やかん体、転倒する。

2 事業概要

令和 5 年 10 月に第 38 回国民文化祭（いしかわ百万石文化祭 2023）が石川県で開催されることから、連なりのある魅力的な夜間景観を創出し、国民文化祭へ訪れた人々を都心へ誘うために、金沢駅通り線（金沢駅～武蔵交差点）において、彫刻作品等のライトアップを実施しました。



② CORPUS MINOR #1



▲位置図

④FUGA



3 おわりに

今後、さらなる魅力的な夜間景観を創出するため、新たに「まちの風情を感じる夜間景観アクションプログラム」を策定し、金沢らしい夜間景観創出事業を進めていきたいと考えています。

【問合わせ先】

金沢市都市整備局景観政策課

TEL:076-220-2364

E-mail:keikan@city.kanazawa.lg.jp

小松市観光交流センター「Komatsu九」の完成

1 はじめに

小松市では令和6年3月16日の北陸新幹線小松駅開業に向け、駅周辺の整備を進めてきました。観光案内や訪れた人々の交流を目的に、令和4年6月から、在来線および新幹線高架下の空間を活用した小松市観光交流センター「Komatsu九」の整備を進め、令和5年9月にグランドオープンしました。



▲Komatsu 九 外観

2 事業概要

事業名：小松駅高架下観光交流センター新築工事

事業場所：小松市日の出町

事業期間：令和4年6月～令和5年6月

3 施設概要

構造：鉄骨造 平屋建て

敷地面積：2,690㎡

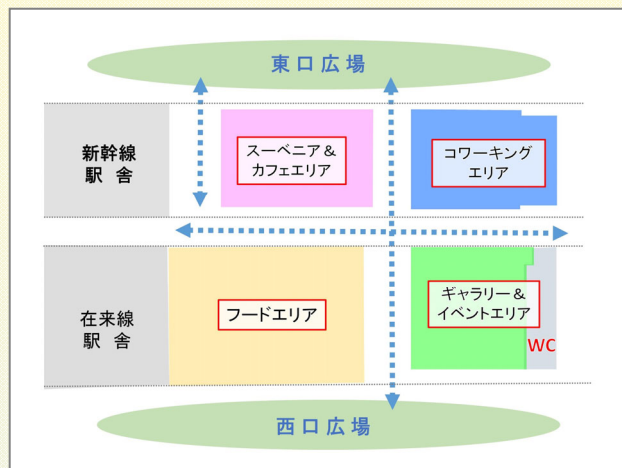
延床面積：1,063㎡

整備内容：建屋3棟、通路シェルター2棟

4 施設の特徴

ひと・もの・情報の交流拠点として、伝統、多文化、食など九つのコンセプトから名付けられた「Komatsu 九」は、①観光案内や北陸初出店のカフェ、市内外の特産物を扱う土産店が入る「スーベニア&カフェエリア」、②ビジネス客や学生が集う「コワーキングエリア」、③市内で出土した弥生時代の土器等が展示される「ギャラリー&イベントエリア」、

④特色ある飲食店が並ぶ「フードエリア」(JR運営)の4つのエリアから構成され、来場者の多彩なニーズに応えます。



▲施設レイアウト



▲スーベニア&カフェエリア

5 おわりに

来年3月に北陸の空の玄関口である小松空港と小松駅を結ぶ自動運転バスが運行開始します。スムーズなアクセスにより「レール&フライト」を推進させ、駅周辺エリアのさらなる賑わい創出につなげ、日本海側の拠点都市を目指します。

【問合わせ先】

小松市都市創造部特定プロジェクト推進室

TEL: 0761-24-8100

E-mail: toshikei@city.komatsu.lg.jp

センターだより

～「まちづくりシンポジウム in かほく」を開催しました～

■ まちづくりに必要な視点や考え方を学ぶ

いしかわまちづくり技術センターでは、住民主体のまちづくり活動への支援やシンポジウム・研修会の開催など、まちづくりに関する様々な活動をサポートしています。

今回、その取り組みの一つとして、「スポーツによるまちづくり」を進めているかほく市において、「スポーツを哲学する～地域を盛り上げるヒントを探る～」をテーマに、哲学的な視点を交えた「まちづくりシンポジウム in かほく」を開催しましたので、ご報告いたします。

■ 開催概要

- 開催日：令和5年10月29日（日）
- 場 所：石川県西田幾多郎記念哲学館
- 内 容：基調講演及びてい談（トークセッション）



▲ 油野かほく市長 挨拶



▲ 会場の様子

■ 基調講演

基調講演では、「走る哲学者」として知られる名スプリンターの為末大さんに「熟達論 ―なぜスポーツをするのか」をテーマに講演していただきました。ご自身が「スポーツ（陸上）」を通して「哲学（考えること）」に触れるようになった経験談と、スポーツが地域の中でどのようにまちづくりに役立つ、あるいは活かされるのかを具体例を交えてお話しいただきました。



▲ 基調講演の様子



■ てい談（トークセッション）

てい談では、金沢星稜大学の西村教授、西田幾多郎記念哲学館の副館長も務められている立教大学の大熊教授をお迎えし、為末氏と3名で「スポーツを哲学する～地域を盛り上げるヒントを探る～」をテーマにトークセッションしていただきました。

トーク中には、子どもにスポーツを教えるときに、モチベーションを保つためにはある程度「遊び」の感覚が必要であることや、「スポーツ」に取り組んだ先が「まちづくり」に繋がるのか、それとも「まちづくり」を目的として「スポーツ」を促すのかでは、取り組む人々の意識が異なるのではないかというお話があり、地域活動に参加する住民の考えに寄りそうヒントがあったように思います。このほか、事前に募集した会場からの質問にお三方が回答する場面もありました。



為末氏



西村氏



大熊氏

▲てい談（トークセッション）の様子

■ 参加者の声

- ・心と身体を健康にするスポーツは、もっと手軽にもっと広がっていけばよりよい地域社会づくりに活きておりました。
- ・為末さんの講演がとてもよかったです。スポーツと子ども、あそびに関する仕事をしているので、とても勉強になりました！またお願いしたいです！
- ・今後も総合型地域スポーツクラブを中心に活動することで地域の活性化を図ってほしい。

編集後記

今回は「いしかわ広告景観賞」について特集しました。景観との調和や地域の特性を踏まえた、デザイン性の高い広告物が増えているようです。広告物がまちに好印象を与え、地域の魅力を身近に感じることができそうですね。

当センターでは、皆さまのまちづくり活動を支援するとともに、まちづくりに関する情報発信に努めています。是非、お気軽にお問い合わせください。

編集協力：石川県（景観形成推進室）、金沢市、小松市
発行：公益財団法人 いしかわまちづくり技術センター
TEL：076-239-1616 FAX：076-239-1606
HP：<https://www.machisen.jp/>
発行日：令和5年12月